

高崎市 漆山古墳発掘調査現地説明会資料

専修大学文学部考古学研究室

高崎市教育委員会 文化財保護課

○漆山古墳の概要

うるしやま ぜんぼうこうえんふん
漆山古墳は、高崎市下佐野町に位置する6世紀後半に築造された前方後円墳で
す。前方部は既に削平されており、残存する後円部の墳丘規模は東西約37m、南北
約31mです。漆山古墳を含む佐野古墳群は、榛名山山麓の扇状地から緩やかな裾野
が広がった高崎市南東部に位置し、かつては81基の古墳が存在したと言われていま
す(図1)。周辺に位置する古墳としては、御堂塚古墳と蔵王塚古墳があり、漆山古墳を
含めて6世紀後半の首長墳と考えられています。また、佐野古墳群の南東一帯には
倉賀野古墳群が分布しており、4世紀後半頃に築造された前方後円墳である浅間山
古墳や大鶴巻古墳、5世紀後半の前方後円墳である小鶴巻古墳が存在しています。

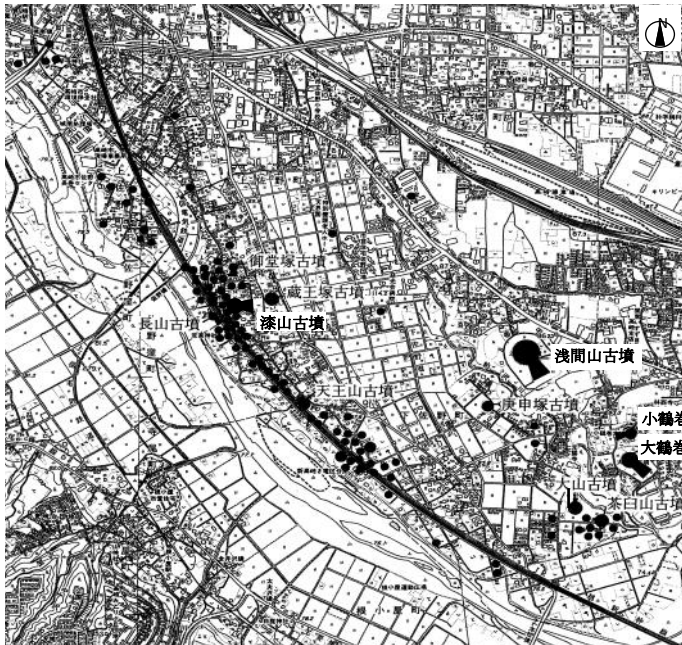


図1. 佐野古墳群分布図

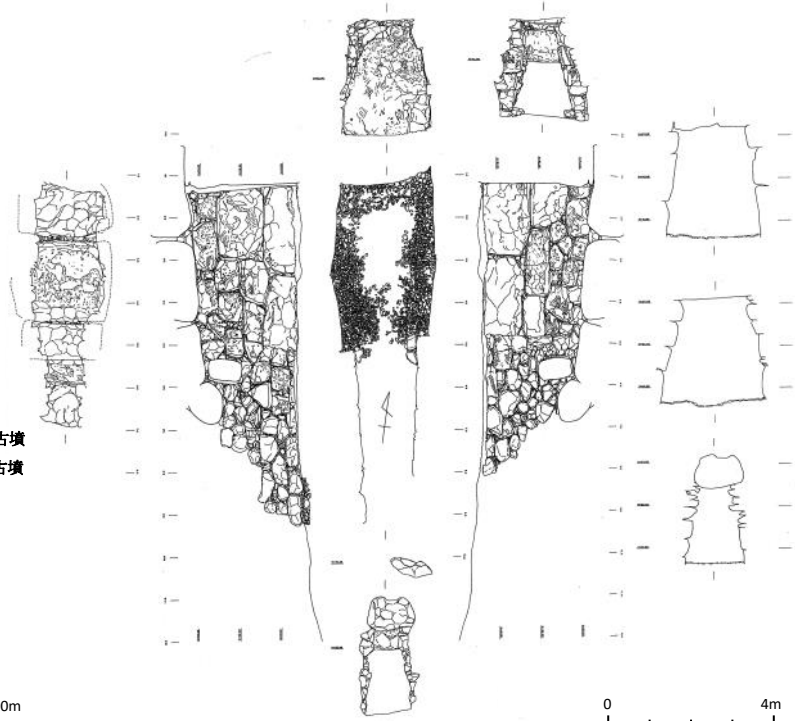


図2. 漆山古墳石室実測図(右島1999)

漆山古墳の石室は後円部に位置しており、南側に開口する両袖式の横穴式石室で
す。玄室長3.73mの中央部が広い平面形を呈しています(図2)。石室内からは鉄刀
や鉄鏃、馬具類、刀子などの副葬品が出土しました(図3)。

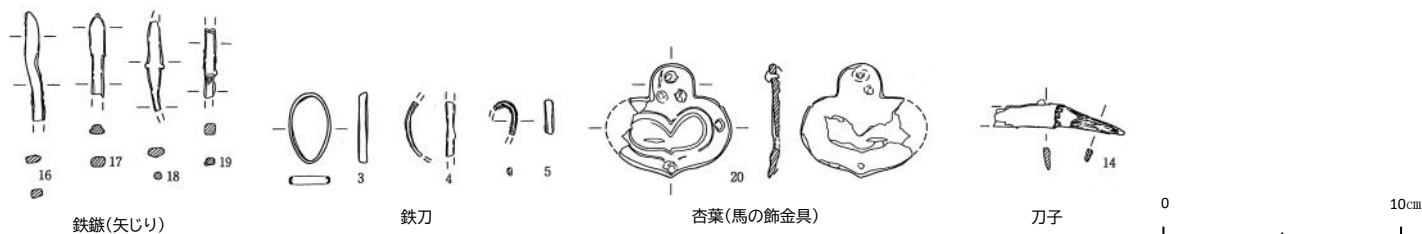


図3. 漆山古墳副葬品(右島1999)

漆山古墳の位置する地域には6世紀後半ごろに大和王権直轄地の「佐野屯倉」が設置され、漆山古墳に埋葬された人物が佐野屯倉の管理者ではないかと推定されています。佐野屯倉を管理した豪族は、のちにその子孫たちが上野三碑の「山上碑」や「金井沢碑」を建てたことでも知られています。

○これまでの調査成果

2016年に漆山古墳が高崎市に寄贈されたことを契機として、発掘調査を行いました。前方部はすでに削平されており、現存する後円部の墳丘規模は東西約38m、南北約30mです。

2016年には後円部の西側から南側にかけてA・B・Cトレンチを設定して発掘調査を行いました(図3)。その結果、墳丘の周囲を巡る周堀(幅約5m)や周堀の外側に外堤(幅約3m)があり、そのさらに外側にも区画溝(幅約3m)が巡っていることが確認できました。周堀からは円筒埴輪と形象埴輪が出土しています。周堀や外堤、区画溝から本来の墳丘の大きさを復元すると、後円部直径が約54mと推定でき、墳丘全長が約90m、周堀・区画溝を含む全長が約115mとなります。この調査によって、漆山古墳の墳丘全長が、従来推定されていた70mよりも大きくなることが分かりました(図4)。

2017年～2019年の調査では、葺石や、墳丘の残存状況を確認するために、後円部

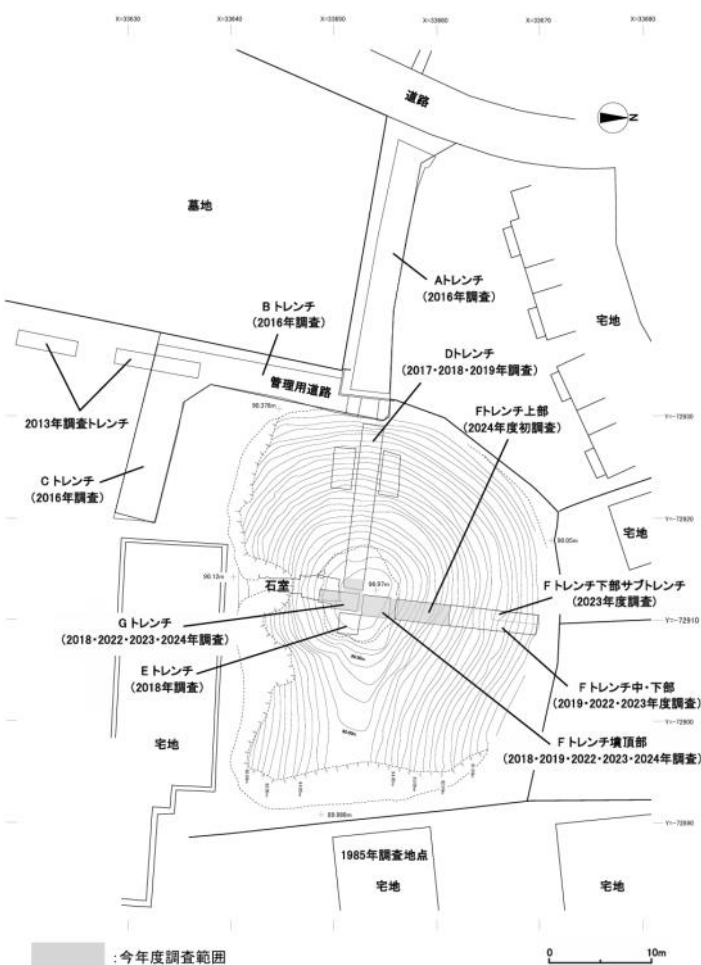


図3. 漆山古墳墳丘測量図およびトレンチ配置図

西側にDトレンチを設定して調査を行い、後円部の上部で盗掘坑が、墳丘中段部分で葺石が確認されたため、葺石の状態と盗掘坑の全容の把握に焦点を当てて発掘調査を行いました。

盗掘坑は1783年(天明3年)の浅間山の噴火による軽石層で覆われており、埋土には1108年(天仁元年)の浅間山の噴火で噴出した軽石が含まれていることから、1108年～1783年の間に掘られたと考えられます。盗掘坑内からは多数の形象埴輪と、少数の円筒埴輪が出土しており、形象埴輪には家形埴輪と考えられる破片も確認できます(図5)。

葺石に関しては、墳丘西側のDトレンチと北側のFトレンチで調査を行い、両者の葺石は原位置を留めていないことが確認されました。

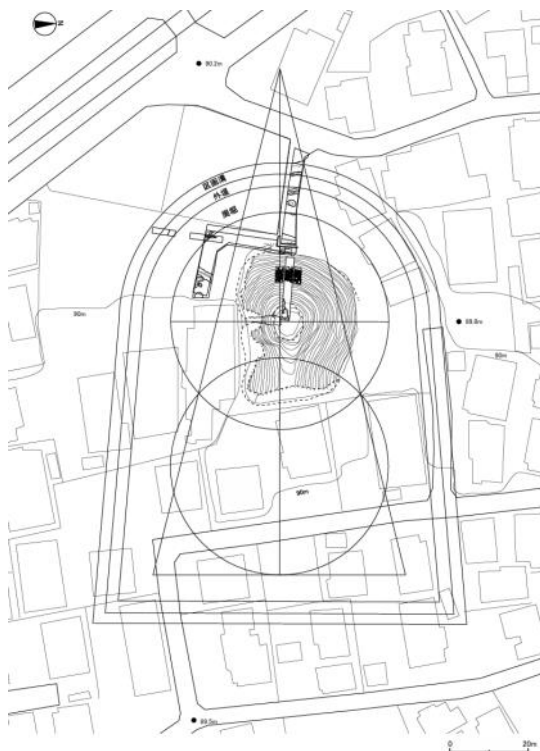


図4. 漆山古墳墳丘復元図

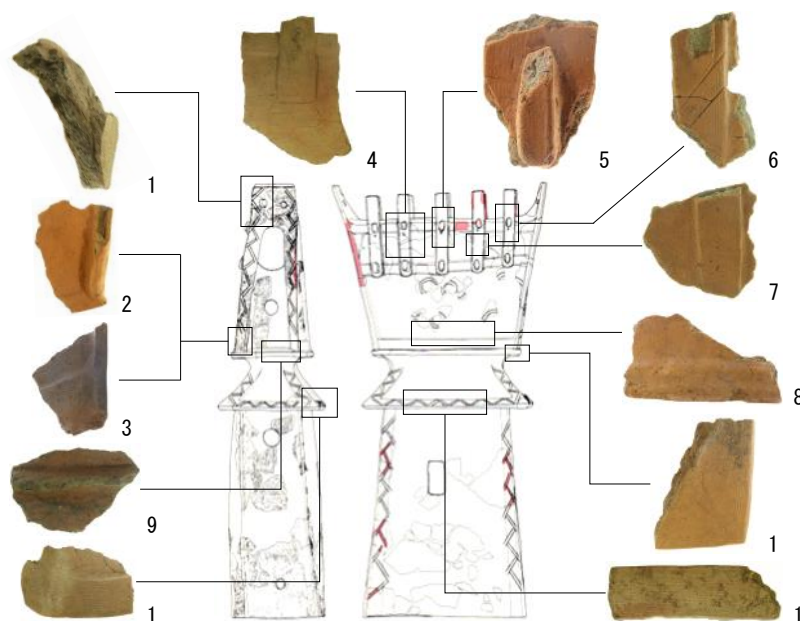


図5. 漆山古墳盗掘坑出土家形埴輪

(形象埴輪の図面は綿貫観音山古墳出土埴輪を使用)
わたぬき かん の ん や ま

もりど

2022・2023年の調査では、墳頂部の墳丘盛土と盗掘坑、および盗掘坑に落ち込んだ葺石の集石と埴輪の出土状況の確認、墳丘北側斜面の状況および墳丘の構築面を確認するため調査を行いました。その結果、墳頂部では盗掘坑に落ち込んだ葺石の集石とともに家形埴輪片が出土しました。Fトレンチ中部と下部からはそれぞれ葺石が確認されましたが、葺石は後世の^{かくらん}攪乱により古墳築造当初の位置を留めていないことが分かりました(写真1)。



写真1. Fトレンチ下部葺石・埴輪出土状況

また、Fトレンチ下部に設定したサブトレンチでは古墳が築造された当時の地表面が確認されました。

○今年度の調査成果

今年度は、昨年度に引き続き墳頂部および墳丘北側の状況を明らかにするために調査を進めています。D・G・Fトレンチで確認されている集石の調査を行い、性格を解明する予定です(写真2)。DーGトレンチ間ベルトでは盗掘坑に流れ込んだ形象(家形?)埴輪片が出土しました(写真3)。

さらに、墳丘北側斜面上に新たにFトレンチ上部を設定し、墳丘盛土面および構築面、溝状遺構の性格を明らかにする予定です。今回の調査によって、墳頂部および墳丘北側の状況と溝状遺構の性格が明らかになるものと期待されます。



写真2. 墳上部DFGトレンチ



写真3. DーGトレンチ間ベルト出土家形埴輪片

参考文献:専修大学文学部考古学研究室 2022「高崎市漆山古墳発掘調査概報」『専修考古学』第16号、専修大学考古学会
右島和夫1999「54佐野古墳群(1)群馬大学調査(2)長者屋敷天王山古墳(3)漆山古墳(4)蔵王塚古墳(5)大山古墳」『新編高崎市史』資料編1原始古代Ⅰ、高崎市

2024年度

高崎市 漆山古墳発掘調査現地説明会資料

発行年月日:2024年8月31日

編集・発行:専修大学文学部考古学研究室

高崎市教育委員会 文化財保護課